

高知県の地震

目 次

高知県の地震活動	
震央分布図及び断面図	1
地震概況	1
高知県で震度 1 以上を観測した地震と各地の震度	2
高知県で震度 1 以上を観測した地震の震度分布図	2
地震一口メモ	
昭和南海地震から 75 年	3

※「高知県の地震」は月 1 回発行するもので、高知県及びその周辺の地震活動状況をお知らせすると共に、適宜、社会的に関心の高い地震について解説します。また、「地震一口メモ」で地震防災知識等の普及に努め、皆様のお役に立つことを目的としています。

※この資料の震源要素及び震度データは、再調査された後に修正されることがあります。

※本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。

また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

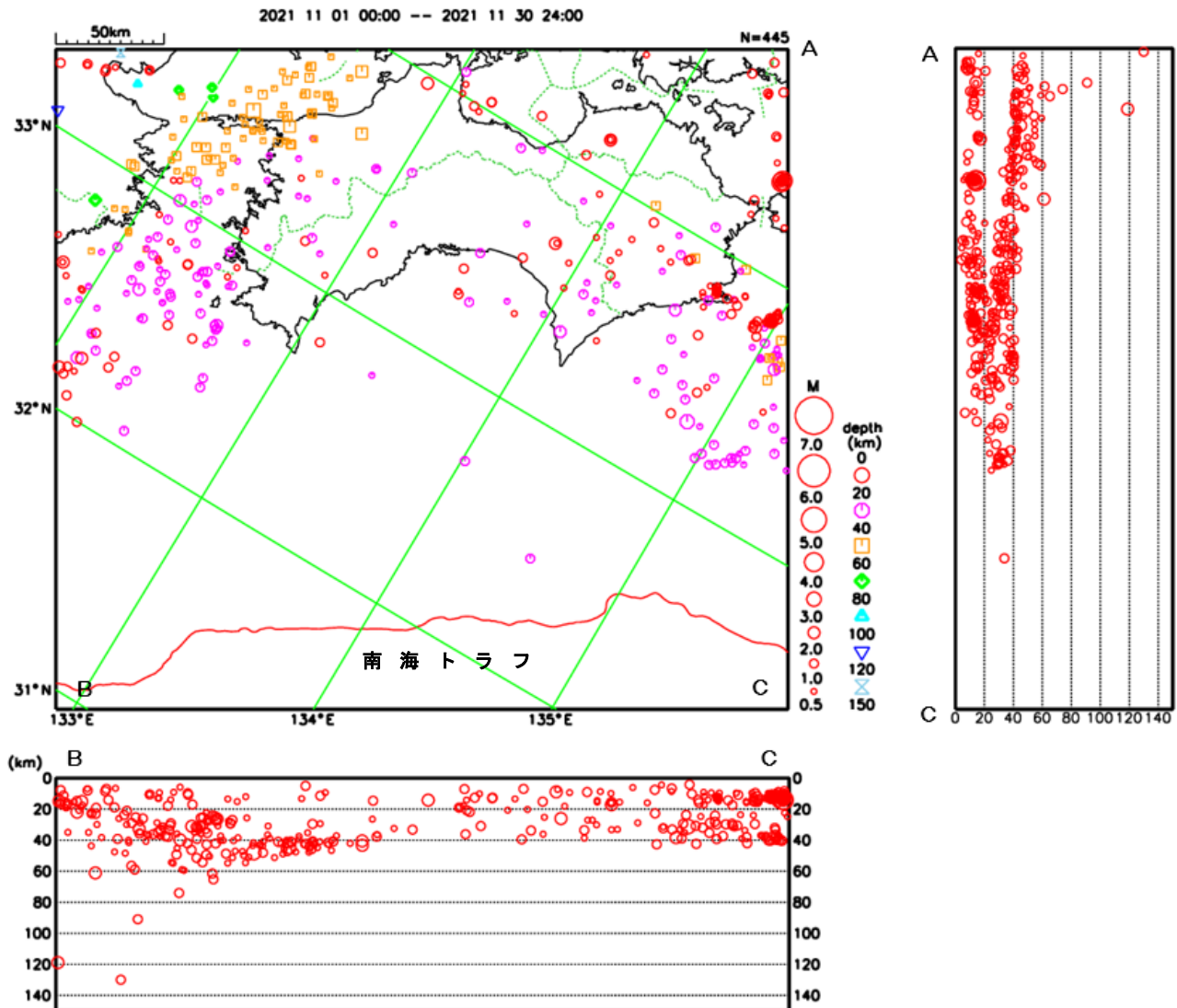
2021年(令和3年)11月

高 知 地 方 気 象 台

高知県の地震活動

「震央分布図及び断面図」

(2021年11月1日～11月30日)



震央分布図では、地震の規模を示すマグニチュード(M)はシンボルの大きさで表しています。震源の深さはシンボルの形と色を深さに応じて変えて表しています。右上の「N」は図中に表示しているシンボルの数(地震の回数)、右の「depth」は地震の深さの凡例を示しています。

断面図(右図及び下図)は、震央分布図範囲内の地震の北北西-南南東(A-C)方向断面図(右)と西南西-東北東(B-C)方向断面図(下)を表し、それぞれの地震の震源の垂直分布を表しています。

「地震概況」

2021年(令和3年)11月に、高知県内の震度観測点で震度1以上を観測した地震は2回でした(前月は2回)。

1日05時35分、和歌山県南方沖の地震(深さ20km、M5.0、震央分布図範囲外①)により、香南市で震度2を観測したほか、高知市、室戸市、安芸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町、黒潮町、芸西村で震度1を観測しました。その他に、東海・近畿・中国・四国地方にかけて震度2～1を観測しました。

13日13時45分、薩摩半島西方沖の地震(深さ149km、M4.7、震央分布図範囲外②)により、高知市で震度2を観測したほか、香美市、宿毛市、本山町、大豊町、土佐町、黒潮町で震度1を観測しました。その他に、中国・四国・九州地方で震度2～1を観測しました。

29日21時40分、鳥島近海の地震(深さ90km、M6.4)により、高知県のほか千葉県から三重県にかけての太平洋沿岸に津波予報(若干の海面変動)を発表しました。

注) 地震概況にある数字は、「震央分布図」、「地震の表」及び「震度分布図」の番号に対応しています。

「高知県で震度1以上を観測した地震と各地の震度」

2021年11月

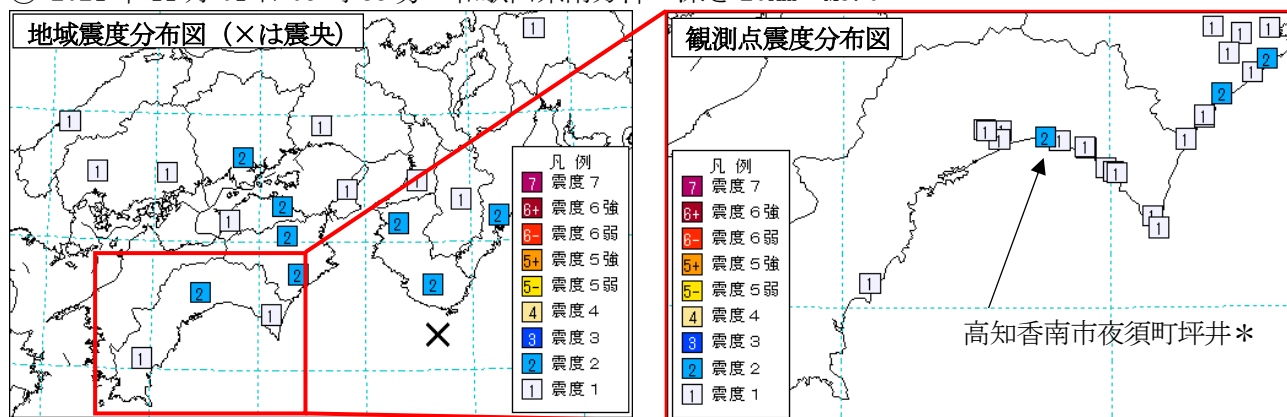
発震時刻 (年月日時分) 各地の震度 (高知県内のみ掲載)	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
① 2021年11月01日05時35分 高知県 震度 2 : 高知香南市夜須町坪井*	和歌山県南方沖	33° 16.5' N	135° 40.1' E	20km	M5.0
震度 1 : 室戸市室戸岬町, 室戸市浮津*, 安芸市西浜, 安芸市矢ノ丸*, 東洋町生見*, 奈半利町役場*, 田野町役場*, 安田町安田*, 芸西村和食*, 高知市本町, 高知市丸ノ内*, 高知市池*, 高知市高須東町*, 黒潮町佐賀*					
② 2021年11月13日13時45分 高知県 震度 2 : 高知市池*	薩摩半島西方沖	31° 11.5' N	130° 27.8' E	149km	M4.7
震度 1 : 高知市本町, 高知市丸ノ内*, 本山町本山*, 大豊町黒石*, 土佐町土居*, 香美市物部町神池, 香美市物部町大栃*, 宿毛市片島, 宿毛市桜町*, 黒潮町佐賀*					

注) *印は、気象庁以外 (高知県または国立研究開発法人防災科学技術研究所) の震度観測点です。

「高知県で震度1以上を観測した地震の震度分布図」

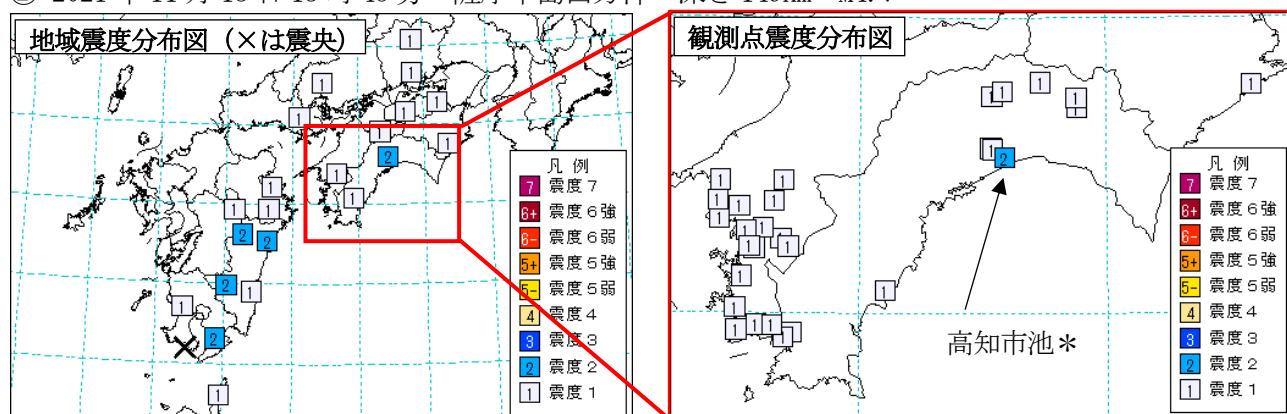
2021年11月

① 2021年11月01日05時35分 和歌山県南方沖 深さ20km M5.0



拡大図

② 2021年11月13日13時45分 薩摩半島西方沖 深さ149km M4.7



拡大図

注) 観測点震度分布図には、県内で最も大きい震度を観測した観測点が少ない場合、観測点名を記載しています。観測点名の*印は、気象庁以外 (高知県または国立研究開発法人防災科学技術研究所) の震度観測点です。

「地震一口メモ」

昭和南海地震から75年

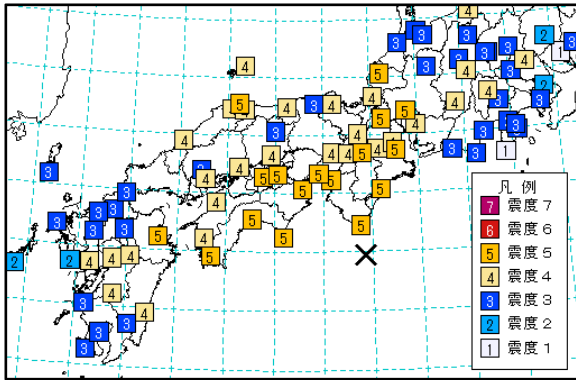
1946年（昭和21年）に発生した昭和南海地震から今年の12月で75年が経ちます。

南海トラフ地震の想定震源域は駿河湾から日向灘にかけての広大な範囲となっており、概ね100年～150年間隔でマグニチュード8クラスの地震が繰り返し発生し、西日本の太平洋沿岸を中心に大きな被害を及ぼしてきました。南海トラフ沿いにおける大規模地震の今後30年以内の発生確率は70%～80%となっており、次の南海トラフ地震の発生が近づいてきています。

1. 昭和南海地震について

昭和南海地震は昭和21年（1946年）12月21日午前4時19分に和歌山県潮岬の沖合で発生しました。地震の規模を示すマグニチュードは8.0でした。

高知県では県内の広い地域で震度5を観測し、沿岸には4～6メートルの津波が押し寄せました。この大きな揺れと津波により高知県内では死者・行方不明者679名、負傷者1,836名のほか、家屋全壊4,823、流失566戸など大きな被害が出ました（被害は「日本被害地震総覧」による）。



観測点震度分布図 (Xは震央)



昭和南海地震による被害

(上) ビルの倒壊 (高知市堺町付近)

(右) 地盤沈下による浸水 (高知市城見町付近)

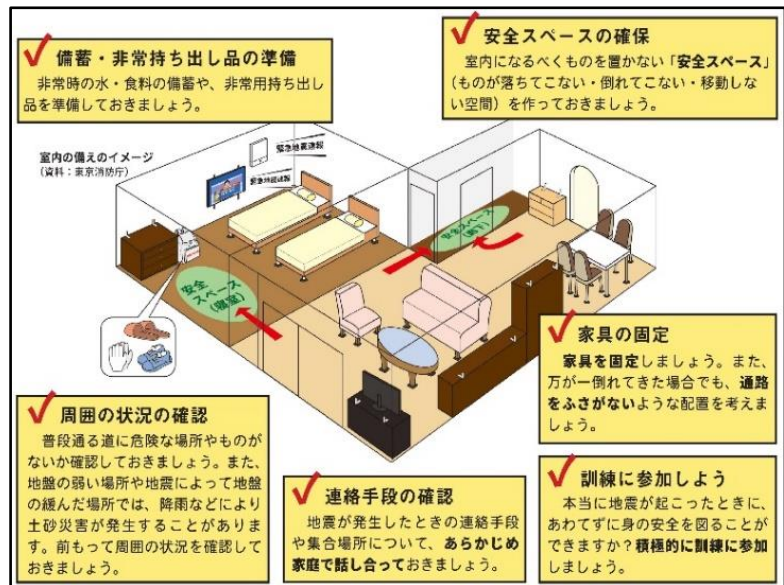
(高知県発行冊子「南海トラフ地震に備えよき」より)

2. 南海トラフ地震に備えて

南海トラフ地震が発生した場合、強く長い揺れが数分間続きます。日ごろから家具などを固定する、危険な個所を確認しておくなどして、地震の揺れに備えましょう。

太平洋側を中心に大きな津波が発生します。海の近くで津波警報等を見聞きした場合は、高台へすぐに避難しましょう。また、海の近くで強い揺れや弱くても長くゆったりとした揺れを感じた場合は、津波警報等の発表を待たずにすぐに避難しましょう。

普段から家族で避難場所について話し合っておき、各自で避難できるようにしましょう。また避難経路の確認および避難する上でガラスやブロック塀など危険な場所をなるべく避けた道を選ぶように心がけましょう。



日頃からの備えの例

- ・南海トラフ地震特設ページ (大阪管区气象台)
<https://www.data.jma.go.jp/osaka/jishinkazan/nankai/index.html>
- ・定期刊行物 高知県の地震 (高知地方气象台)
<https://www.data.jma.go.jp/kochi/kankoubutsu.html>